

○子どもたちの安全安心を守るための対策について

本年5月、新潟県で小学校2年生の女の子が、近所に住む男に殺害される事件が起きました。殺した上に線路に置く、という悲惨な事件で、本当に痛ましい事件でした。その翌月の6月19日にも、静岡県的小学校4年生の男の子が同じ市内に住む男から、突然刃物で切り付けられ重傷を負うなど、全国的に子どもたちが被害者となる痛ましい事件が相次いでいます。

その2件の事件はいずれも、子どもたちがいつもの通学路を下校中に被害に遭ったと新聞報道されています。実は私も小学生の孫が3人おりますし、幼児教育の現場におりますので、子どもへの声かけ等の不審者情報が最近特に頻繁にメールで発信され、他人事ではなく本当に心配しております。そこで質問いたします。

Q1.神戸

子どもを対象とした声かけ等にはどんなものがあるのか、現状についてお尋ねします。

A1.生活安全部長答弁

声かけ等の態様といたしましては、「お菓子をあげるからついてきて」等の声かけ、下校中、後をずっとついてくる等のつきまといのほか、じろじろ見つめる、大声で叫ぶ等の不安を覚えさせる行為や容姿撮影等があります。

平成29年中、愛知県内において13歳未満の子どもに対する声かけ、つきまとい等の不審者情報は863件、前年比プラス144件、率にして16.7%増加しております。

態様の中で最も多いのは声かけで全体の3割を占めます。不審者情報の傾向を分析しますと、月別では4月から6月にかけてが多く、夏

休みや冬休みは少なくなる傾向にあります。

曜日別では、学校へ登校する平日が多く、子どもが学校や塾から一人で帰宅する通学路や、帰宅してから公園等で遊んでいる時に声かけ等をされた割合は、全体の半数以上に及んでおります。

夏休みや休日の発生が少ない理由につきましては、子どもたちが保護者と一緒に過ごす時間が増えたり、夕方には必ず学校から下校したりといった一律的な行動をしなくなることから、子どもの行動が行為者から予想しづらいためと思われれます。

Q2. 神戸

そのような例は、過去愛知県において、新潟県や静岡県のように、登下校中の子どもたちが重大な被害者となった事件があるかどうかお尋ねします。

A2. 生活安全部長

委員お示しのとおり、本年新潟県や静岡県では、下校中の児童が被疑者となった痛ましい事件が発生しております。

当県における登下校中の児童が被害蒼受けた重要事件といたしましては、平成24年に中川区において、当時7歳の女児が登校しようと自宅マンションの階段を下りる途中で、階下に住む男によっておいせつ目的で自宅に連れ込まれ、約12時間に亘って監禁される事件が発生しております。

また児童ではありませんが、平成20年に豊田市で当時15歳の女子高生が、クラブ活動が終わって、一人自転車に乗って下校する途中に何者かに殺害される事件が発生しております。

Q3. 神戸

愛知県の場合、朝の登校は通学団などでみんな揃っていくのでまず事件は起きないと思いますが、下校時は学年によって違うため少人数になってしまい、さらに自宅近くとなると1人で裏道に行くとい

うケースもあり、守るという課題はさらに難しくなると思いますが、子どもたちの安全安心を守るために、県警がどのような取り組みを行っておられるのかお尋ねします。

A3. 生活安全部長

県警察といたしましては、子どもへの声かけ、つきまとい等の不審者情報を把握した場合は、県警察が配信する「パトネットあいち」や「すぐメール」等により速やかに情報発信して、県民の皆様への注意喚起に努めております。

また、これら不審者情報につきましては、行為の態様等について分析し、制服警察官による警戒活動に反映させることはもとより、これら行為者を特定して検挙、あるいは指導・警告するという先制・予防的活動を行っております。

特に子どもの安全対策といたしましては、県民総ぐるみの取り組みが必要でありますので、自治体・教育機関・企業と連携した「こども110番の家」の拡充や「民間ボランティア」による見守り活動の活性化等を推進しております。

更に、当事者となる子どもの安全教育としましては、子どもの安全リーダーを育てる防犯少年団活動を推進しているほか、子どもたちが不審者から逃げる方法等を疑似体験しながら学ぶ体験型防犯教室の拡充などに取り組んでいるところであります。

Q4. 神戸

春日井市も安全安心教育に力を入れており、今月20日にうちの幼稚園で、春日井安全・安心まちづくりフォーラム女性委員会の方々が防犯教室を開いてくださり、子どもたちに危険な場面の対応を教えてくださいました。自分の身は自分で守る、という意識を持ってきて、何かあっても大丈夫、とっていたところ・・・

一昨日、富山県で起きた事件はショックでした。警察官から拳銃を奪った男が小学校の敷地内に侵入したという事件です。警察官と警

備員の方が2名亡くなられ、警察の素早い対応で小学校に侵入した時点で男は確保され、子ども達や先生たちに危害はなかったものの、どの親も生きた心地がしなかったことでしょう。まだ事件については捜査中なので、どのような対応策を取ったらよいのか現段階での明確な対応策は難しいかもしれませんが、このような事件が絶対起きないとは言い切れないのです。そこでお尋ねします。今の段階で県警が推進する学校の安全対策を教えてください。

A4. 生活安全部長

当県では、このような重要事件被疑者が学校施設に侵入した事件は発生しておりませんが、窃盗や盗撮などを目的とした侵入事案は、平成29年中に9件把握しております。

県警察といたしましては、学校施設への侵入事案を認知した場合、侵入者の身柄確保に向けた捜査はもとより、児童の安全確保のための警戒活動を行っております。こうした情報について「学校安全緊急情報共有化広域ネットワーク」や「パトネットあいち」などにより、学校関係者、保護者及び周辺住民の皆様方への注意喚起を行っております。

また教職員、児童等の危険対応能力の向上を図るため、平素から幼稚園・学校等と連携した不審者侵入訓練を推進しており、平成29年度中は657回実施しております。

今後も関係機関等との連携を密にしながら、子どもの安全対策に取り組んでまいりたいと考えております。

<要望>神戸

最後に要望いたします。

事件の一報が入った後、小学校の的確な対応、さらに絶対子どもを守るという先生たちの強い意志で、小学校内で犠牲者が出なかったことは本当に良かったと思います。が、今回のように拳銃を発砲されたら、防ぎようはありません。どのような経緯でそうなったかは分か

りませんが、男が拳銃を持っていることは学校に知らされず、先生たちは刺股を持って玄関で防ごうとしたそうですが、拳銃と聞いていたら、その対応が的確だったかどうか疑問が残ります。

もし、近くの小学校で起こったら、うちの幼稚園で起きたら・・・特に保育所や幼稚園は、ほとんどが女性ばかりの職場です。それでも我々教育者は最大限の努力をして子どもたちの安全を守らなければなりません。日本は銃社会ではないため、不審者が銃を持つということは想定に無く、これまでのマニュアルでは今回のような事件が起こった時に役に立たないのは明らかです。大至急、不審者対応の危機管理マニュアルを見直す必要があります。

このマニュアルは文部科学省の管轄ですが、警察をはじめ関係部局が協力していただき、万が一事件が起こった時に、まず何をすべきか、どのような覚悟が必要か、しっかりとしたマニュアルを作成していただきたいこと、職員に対しても最悪を考えての対応の仕方や訓練などの計画を立てて、即実践して頂くことを強く要望して質問を終わります。